

C-14 きょうだい関係に関する実態調査(カ2報) 将来に対する意識について
昭和女子大家政 浮須場紗 ○熊沢幸子

目的 将来に対する意識、性格がきょうだい関係にどのような影響を与えているのかを考察するために実態調査を行った。

方法 昭和53年4月から5月にかけて、本学学生及び千葉県内の短大生 合わせて896名を調査対象として調査用紙を配布した。

- 結果
- ① 将来 両親と同居を希望している者は35.6%、別居希望は64.4%
 - ② 扶養については、きょうだいに男性がいる場合と、いない場合とで差がでた。
 - ③ 相続における希望順位は①法律に従う、②扶養者が、③扶養者に劣り、本人に劣る
 - ④ きょうだい関係は仲間関係を理想とし、将来希望する子供数は1男1女の2男1女
 - ⑤ きょうだいか いぬの方がよいと思う時は、相談、話し相手、助言、(補助)の順
いない方がよいと思う時は、けんかをした時、一人でいたい時、差別される時(比較)の順と成った。